

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

特定非営利活動法人かながわアドバンスサポート

② 施設・事業所情報

名称：株式会社アンティー光の園第二保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：渡辺 智子	定員（利用人数）： 90名
所在地：本園：横浜市港北区菊名6-15-14、分園：横浜市港北区菊名6-21-17	
TEL：045-403-5099	ホームページ：https://www.aunty-i.com/hikarinosono.html
【施設・事業所の概要】	
開設年月日 本園：2015年、分園：2019年	
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社アンティー	
職員数	常勤職員： 21 名 非常勤職員 15 名
専門職員	施設長 1 名 調理員 4 名
	保育士 22 名 看護師 1 名
	栄養士 2 名 事務員 1 名 保育補助 7 名
施設・設備の概要	乳児室（分園） 1室 調理室 1室 幼児用トイレ15個
	保育室（本園） 1室 屋外遊技場 62.5㎡

③ ・基本方針

【保育理念】

北海道大学名誉教授 故若井邦夫先生（乳幼児発達心理学）の理念をもとに、「子どもの心を大切に」を基本理念にあらゆる子どもの可能性を信じて、発達に必要な健全と安全を守ります。

- ・自立に向けて基本的な生活習慣の確立と社会性と協調性を育む保育を目指します。
 - ・依存・信頼・体力・意欲・知恵の育ちを大切にします。
- “心・知恵・身体のバランスのとれた育ち”を大切にし、成長の過程で出会う目の前の問題や壁を乗り越えられる精神の構築を促す保育

【保育方針】

- ・色々な事を経験し、社会性・協調性を身につけます。
- ・自主的・自発的・主体的に生きる力を育みます。
- ・家庭的な雰囲気の中で共に生きている喜びやお互いに感謝する心を大切にします。
- ・地域の人々との触れ合いを大切に保育活動を行います。
- ・職員は信頼される態度で言葉遣いを大切にします。

【保育目標】

- (1) 思いやりのある優しい子
- (2) 自己解決力のある強い心の子
- (3) 仲間を大切にし、社会性・協調性のある子

④ 施設・事業所の特徴的な取組

【立地および施設の概要】

株式会社アンティーの光の園第二保育園の本園、分園は定員90名の規模でJR横浜線東急東横線のターミナル駅菊名より東急東横線に沿って大倉山方向に歩いて6分の線路沿いの本園と、分園はその先のマンションの1階に立地しています。ターミナル駅菊名は横浜新横浜のオフィス地区に隣接しておりまた京浜工業地帯及び都心の渋谷には近く、保護者の仕事場への通勤には最適な場所にあります。駅から数分でありながら広い園庭を保有しているため、子どもたちの安全を確保しながら伸び伸びあそべる環境が保障されています。また近隣にも複数の公園があるため年齢や活動に合わせて行き先を選び散歩しています。菊名周辺は地区センター、図書館、YMCAの体操、水泳スタジオがあり、子ども達の文化教育、運動教育に優れた環境にあります。

分園は0～2歳児の乳児が過ごす環境として、広々とした空間を担保しています。本園も分園も室内環境も充実していて、雨季や冬季でも体力増進を図ることができます。

【園の特徴】

園の特徴としては、年間保育テーマ「世界の平和を願う人として、輝いて生きましよう」を掲げ、そのテーマに沿って、子どもたちの情操教育を行うように努めています。特に平和教育を大切にしている、創立者が大きく影響を受けたフィンランドの教育にもある「子どもたちを大切な人として向き合う姿勢」やその子どもたちにも、隣人を大切にする精神を養うように、毎月のお誕生日会や集会の場で、世界の紛争下や貧困の子どもたちのスライドを使い、私たちに何ができるか、どんな事をしたら、平和が訪れるのかなどを考える機会を持つように働きかけています。2024年1月の能登半島地震では、語り合いの場で、年長児がポスターと募金箱を作る活動も意欲的に取り組んでいました。またモンテッソーリ講師らによる文化や自然、文字、数の学びを取り入れています。

課外教室として、YMCA体操、水泳や空手教室、リトミックの専任講師による音感教育、第二言語に触れる機会として外国人講師が生活の場を共にする機会を設けています。また職員も音楽リトミックを園内研修の場で学び、ピアノ指導者、リード指導者の育成にも努めています。

他にも室内環境も充実出来るように戸板を複数枚保有して、全身運動を促せるようにダイナミックなアスレチックを組んで楽しめる環境も提供しています。

⑤ 第三者評価の受審状況

評価実施期間	2023年07月10日（契約日）～ 2024年2月9日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（2019年度）

⑥ 総評

◇特に評価の高い点

1. 豊かな保育計画と実践

子どもたちを中心として、法人が掲げる5本の柱の中にインクルーシブな関わりや乳幼児期の子どもたちが十分に愛される大切な人としての関わり合いやあそび、学びが展開出来るように工夫しています。特に本園では、園長が過去にニュージーランドの幼稚園で経験した屋外あそびの一部を再現して、子どもたちが主体的にあそべるよ

うに山桃の木を大きく育て木登りをしたり、大きな丸太や長い板を取り入れ、大型遊具に頼らなくても高低差のあるアスレチックあそびができる環境構成を工夫しています。また法人発足のルーツでもあるフィンランドにも視察に行き、その様子も研究材料の一つにしながら、園庭在り方委員会を発足して、中長期的に園庭を安心して個々が充分楽しめる空間作りに取り組んでいます。

また2024年から園長も京都モンテッソーリ協会の教師養成講座を受講し、子どもたちが「自ら考えて行動する機会を大切にする」「隣人を思いやる心」「やって良いこと悪いことを判断出来る子」「大人から認められ信頼され落ち着いた心」が育てられるように中長期計画を立てています。

2. 職員の保育技術・調和教育

職員の精神衛生を大切にしています。2021年に公の場で「心理的安全性」という言葉が流通する頃より、外部研修で学んだことを職員研修会にも取り入れるようにした事で、管理職を始め、職員同士が相手を思いやる姿勢やネガティブな気持ちをポジティブな気持ちに変える意識を持つような風土作りをするなど職員の教育に重点を置いています。

特に今年は法人の重点課題にしている1つとして、一丸となって、良好な職場作りをしている事で離職率の大変少ない実績を誇っています。

3. 子どもの人権擁護

創設以来、「子どもの心を大切に」を社訓に、かつて顧問でもあった児童精神科医の佐々木正美先生の書物を土台にしながら、子どもたちに言い聞かせる保育とは無縁の「子どもを大切な1人の人」として関わり合い、人権や意思の尊重を大切にする保育に力を入れています。そのために、職員の言葉掛けの勉強会を2010年から年に2～3回取り組み、不適切な言動を振り返る機会や言い換える学びの場を設けています。

4. 美味しい給食

給食は、内部研修に40年以上洋食屋の名店で勤めていたシェフを招いて、「盛り付け」「ひと味の工夫」「手際の大切さ」を学び、実践研修を行うことがあります。

また某有名店のパティシエも調理に携わっているため、毎月のお誕生日ケーキのデコレーションは、月毎のデザインテーマを設けてケーキを用意するので、子どもたちが大変楽しみにしている一つです。これも、年間2千時間以上ここで生活する子どもたちが少しでも楽しみに来てくれる場所でありたいという創設者の願いから、本格的な給食を提供しています。

◇さらに努力が期待される点

1. 改善テーマの体系的取り組み方

保育園の運営上の要改善課題は、各種指導計画の見直し、振り返りや定期的に行っている保育士一人ひとりの「自己評価」の纏めから浮上するものであり、園は、責任者を決めた職員の小グループ活動で改善作業に取り組んでいます。この改善作業が順調に進められ、成果を得られることを期待いたします。

⑦ 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

この度の第三者評価機関のみなさまに深く感謝いたします。コロナ禍に入ってから数年間は思うような保育活動を展開出来ず、これまでの保育から新しい生活様式を取り入れた試作的な活動もあり、満足できない部分もありましたが、そのような中でも保護者様方からご信頼を寄せて頂いていることを感じるメッセージ、評価を頂けたことは、私たち保育者にとって、大きな励みになりました。この度のご利用者様評価で

高く評価していただいた私たちのホスピタリティーや給食の満点評価等の点については、今後も向上心を持って維持していきたいと思っております。また更なる努力として、親御様に見える保育をご提供できるよう動画配信の継続と併せて、参加保育の充実を図り、園の自己評価から見えてきた課題を職員全体で共有できるようなグループ制での話し合いの場を増やしていきたいと思っております。

この度の第三者評価の結果を受けて、今後更なる研鑽に努め、頂いた助言を日々の保育に活かしていきたいと思っております。この度は第三者評価のはじめからご丁寧な説明、迅速で公平且つ適切なご対応、誠にありがとうございました。

⑧第三者評価結果
別紙2のとおり